

石灰岩

老川 寿太郎*

次の4コースの石灰岩観察をした。

- (1) 三倉 上の平 大河内 吉川 福用 伊久美方面一帯の山稜と谷
- (2) 下百古里 上百古里 犬居 胡桃平 田河内方面一帯の山稜と谷
- (3) 白倉山 奈良代山 戸中山 モロクズ 京丸北方山地一帯の山稜と谷
- (4) 竜頭山 秋葉山 光明山 只来方面一帯の山稜と谷

(1)では石灰岩はみられず50 cm経から5 cm経のノジール5,000個 (2)では頁岩に挟まれた石灰岩250個と2 m~5 cm経の大小亀甲型ノジール2,000個 (3)では長さ50 m幅8 m高さ50 mの石灰岩脈と頁岩を石灰で包み再び頁岩で覆うノジール10個 (4)では30個の石灰岩体とノジール5個を観察することができた。(2)は頁岩に挟まれた圧板状小形 (4)に於ては a:ジュ状石灰岩 阿蔵谷、b:青磁色石灰岩 二俣川第8の谷、c:石灰角礫岩 只来地内、d:黒色石灰質ノジール 只来地内、等特色あるものを観察できた。(3)に於ては晶洞内にモザイク型にぎっしりつまった方解石のある岩体を観察した。写真1はdの中の化石で約30個 最大のものは長さ10 cm太さ3 cmである。何れも8回巻きで外殻の厚さ1.4 mmあり、第2巻目でみられる凹凸ある条は10条で平行している。次に大きいものは長さ8.5 cm 太さ2.5 cmあった。最小は長さ2 cm 巻き数は8で先端まで殆ど同じ太さに見える。写真2は、(3)の晶洞内の一部で11×10×5 cmの巨晶もあるが、平均して4×3.2×2 cmであった。

以上はすべて四万十帯中生代白亜系のもののみで古生代や新生代については一切目をとめず、山稜と谷川、そして7月7日豪雨及び台風後の山くずれを含めて6ヶ月の調査結果である。



写真-1

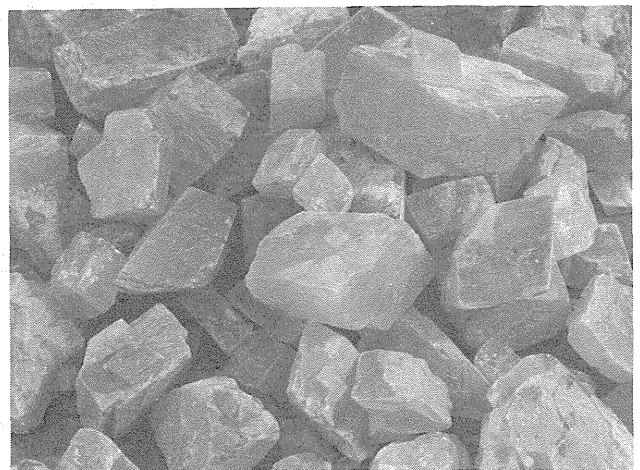


写真-2 →

* 天竜養護学校